

## ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 田中辰雄

作成日 2024.2.8

### 【責任】

情報化とデータ分析に関わる講義を担当している。情報化に関しては、情報セキュリティ、情報倫理、知的財産などが担当科目で、学生がこれからの情報化社会で生きていくための知識を提供するのが役目である。データ分析に関しては、データサイエンスとビジネス、統計学などが担当科目であり、膨大なデータから意味を読み取る能力を身につけさせるのが役割である。なお、再来年からは大学院の講義も担当する予定であり、大学院では後者のデータ分析に特化した講義を行う予定である。

### 【理念】

私の教育の理念は、どのような企業に居ても、あるいは転職をしても、自分の立ち位置（価値）を見出し、いける人材を作ることである。変化の多い時代では企業も変化するため、一つの企業に居続けることは難しい。そのため学生はどの企業に行っても生きていける力を見つける必要がある。

力にはいろいろありうるが、私が教育で提供する力はデータ分析の力である。情報化時代にあっては、どの企業もデータをますます使うだろう。データ分析の力を身につければどの企業に行っても、また企業内のどの部門に行っても自分の役割と価値を見出すことができる。また、データ分析の手法は日進月歩であるため、新しい手法を見つける意欲も同時に育てたい。

### 【方針・方法】

学生は、データ分析に関心はあっても、数字の羅列を見ると躊躇しがちである。また、統計学の理論は数学的に記述されており、これをそのまま説明すると学生はやる気を失ってしまう。そこで教育方法を工夫する。

#### (1) グラフの重視

数学は記述のための方法で本質ではないため、できるだけグラフ化してビジュアルを多用する。本質的に大事なものは数式ではなく、統計的な「意味」であり、それはグラフと簡単な数値例で理解可能である。

#### (2) 演習の重視

実際のデータを使った演習を重視する。データ分析は実際に手でデータを処理してはじめて真に（腑に落ちて）理解できることが多い。特に企業内でデータに強い人になるためには、与えられたデータを処理する能力を持っている必要がある。したがって、データサイエンス系の講義では、毎回のように演習を行う。

#### (3) 興味をひくデータ

データは無味乾燥な数字であるので、興味のない話題ではとっつきにくい。そこでできるだけ学生が興味を持てるデータを用意する。昨年の例でいえば、野球選手の年俵、国別の外国観光客数、音楽 CD の売上、家賃などをとりあげた。いずれも学生が身近に感じられるデータである。また、講義によっては動画や映画なども積極的に活用する。情報倫理や知的財産などでは特に有効な方法である。

#### (4) 実用に当たっての注意点：倫理、プライバシー、著作権

データ分析を企業内で役立てようと思うと実践的には配慮すべき問題がある。情報倫理、プライバシー、著作権がそれで、これらに無配慮にデータ分析を活用するとスキャンダルを引き起こしかねない。倫理的に問題となるデータ利用、プライバシーを侵すデータ収集、

著作権の侵害は、データ利用にともなう不祥事で、実際これで大きな損失を被った企業は多い。そこで、講義ではこれらの内容にも触れる

#### (5)アクティブラーニングの活用

情報倫理、プライバシー、知的財産の問題では、具体的な案件に出会った時に自分頭で考える必要がある。考える力を養うために、グループワークを行い、討論させて報告させる方法をとった。A か B か判断の分かれる問いに対し、自分たちで結論を出すことを強いられることで学生は考える過程を体験できる。

#### (6)理解の確認と定着

学生の理解の確認と定着をすすめるため、適宜小テストを行う。特に演習のない講義では必ず小テストを入れる。また、講義のはじめには前回の講義内容をざっと復習する。学生は二度聞くことで記憶への定着を図れる。

### 【成果・評価】

- ・授業の総合的な満足度で見ると、科目によるばらつきはあるが、だいたいのところ大変満足 25%、満足が 40%程度である。講義後に質問したり、感想を述べにくる意欲的な学生も多く、感想文を見ると面白かった、よく理解できたという声が多い。
- ・ただ、不満足と答える人もいる。不満足の原因を見ると講義内容では無く、話し方に不満があるという人が多く、感想文を見ると滑舌が悪い、早口などの指摘があった。
- ・来年からは滑舌を良くし、ゆっくりしゃべることを心がけて、評価をあげていきたい。

### 【目標】

- ・短期目標：話し方の改善とゼミの充実  
滑舌を良くし、ゆっくり話して理解しやすい講義をめざす。滑舌は演技経験があるのでともとはよくできていたので、気を付ければ直せる。また来年から 3 年生のゼミが始まる。ゼミは自分の裁量で自由にできるので教育理念を押し出して一貫した教育を試みたい。ゼミの学生に対し、統計学、データサイエンス、情報倫理などバラバラの科目の内容を一貫して理解する教育を試みたい。将来的にはゼミ生のなかから大学院に進学する人を出したい。
- ・長期目標：大学院教育  
再来年から大学院がはじまる。大学院はデータサイエンス専攻科で全面的にデータ分析に特化した講義が行われるので、そこで新たなカリキュラム作りに取り組みたい